

令和元年度 野田市文化会館及び野田市生涯学習センター
指定管理者管理運営状況調書

担当課 生涯学習課

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用が確保されること	①平等利用確保への取組	B	B	
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	①サービス向上への取組	B	B	
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護への取組	B	C	メールアドレス確認不足によるメール誤送信
緊急時の危機管理体制が確立されているか	①緊急時の危機管理への取組	B	B	
	②要望、苦情への取組	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る収支見込について	B	B	
	②経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際しての地元業者への配慮	①地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①人員配置について	B	B	
	②職員の指揮監督・管理体制について	B	B	
	③人材育成の取組状況	B	B	

総合所見

施設管理面では、文化会館の指定管理が4年目となり、指定管理が9年目となる生涯学習センター（旧野田公民館及び旧中央コミュニティ会館）と同様に、円滑な施設管理が図られた。法定点検、保守点検もほぼ問題なく施設管理業務が行われており、指定管理業務仕様書の要求水準を満たしていると考えられる。

施設の老朽化により、たびたび設備や機器の故障が発生しているが、職員の応急対応や緊急修繕を行うなど来館者へのサービス低下を防ぐ措置は的確に行われている。また、台風等自然災害時の避難場所としての役割を果たすべく、職員間の緊急連絡体制も徹底されており、台風19号時の避難場所開設もスムーズに行うことができています。今後も、文化会館及び生涯学習センターが互いに連携を図り、効率良く、高水準な施設管理を目指してもらいたい。

なお、運営上では、平成31年4月にはメールアドレスの確認不足によるメールの誤送信事件があった。当事件は、社内業務に関する連絡メールであり個人情報の流出はなかったが、初歩的なミスによるものであることから、一歩間違えば重大事故につながることを再認識し業務に従事していただきたい。

事業面では、文化会館委託文化事業については、鑑賞型事業4事業、普及型事業2事業、参加型事業2事業を実施見込みである。

7月に開催した「キエフ・クラシック・バレエ チャイコフスキー夢の3大バレエ」は、新たなジャンルを市民に提供するため実施したが、約63%の集客に留まり、約130万円のマイナス収支となっている。しかし、他の委託文化事業は好評で、今年度の事業収支は大幅な赤字になる見込みはない状況で推移している。今後も収支バランスを保ちつつ、良質な公演の提供、若い人の動員、地元アーティストの発掘・支援に努めてもらいたい。

また、生涯学習センターの主催事業は計画された事業も全て実施される見込みで、「櫻のホールまつり」に併せて「野田カラオケ選手権」「こども発表会」も開催を計画するなど、積極的な集客に努めている。自主事業では、計画された事業は実施される見込みである。引き続き積極的に事業を展開してもらいたい。

次に収支状況であるが、指定管理料、施設利用料等の収入見込みが263,393,403円であるのに対し、文化会館、生涯学習センター（旧野田公民館、旧中央コミュニティ会館）、櫻のホール全体の支出が263,298,005円と見込んでおり、収入が支出を95,398円上回る見込みとなっている。

前年度決算額と比較すると、前年度は公演の直前に近隣市において同公演が開催された影響から集客が図れなかった文化会館委託文化事業「天童よしみコンサート」での約350万円の入場料収入不足と文化会館利用料金収入の減により、約260万円の赤字となったが、今年度は、この教訓を生かして集客のある公演としたことから収支バランスが均衡する形に戻っている。

施設利用に係る利用料金を前年度と比較すると、文化会館では2月から空調設備改修工事が始まり休館となるため約23万円の減、生涯学習センターでは、10月の台風による臨時休館の影響もあり12月までで約20件の利用件数が減り、約70万円の減少見込みとしている。

利用料全体では、約101万円の減少となっている。

なお、空調設備改修工事に係る利用料金の欠損については、指定管理者の責によらないことから、実績に基づき利用料金発生ベースで、工事休館に伴う支出経費の影響額と精算することになっている。

最後に指定管理者の経営状況であるが、野田市文化会館・櫻のホール活性化共同体を構成する3社、アクティオ株式会社、新生ビルテクノ株式会社、株式会社シグマコミュニケーションズの経営状況については、各社の平成30年における貸借対照表、損益計算書等により経営が安定しているものと評価する。

全体的には事業計画書に沿って管理運営がなされており、今後は、事業収入の健全化、施設利用件数の増加を目指し、文化会館、生涯学習センター（旧野田公民館及び旧中央コミュニティ会館）の連携を密にし、さらなるサービス向上に努めてもらいたい。